

## 植物多様性センターの「クロマツの種子」

昨年の6月に低茎草地エリアに新たな園路が開通してからガイドツアー等で大活躍のクロマツ。クロマツの松ぼっくり(球果)は、開花後2年経った秋に成熟し、それ以降に種子を散布します。2年目の松ぼっくりをふと見ると、成長とともに種鱗が開き始めていました。この種鱗の開閉は空気中の乾湿により行われます。晴れている時に種鱗が開き、その隙間から翼の付いた種子を出し、風にのせて飛ばします。雨が降ると開いている種鱗は閉じます。



晴れた日に根元の開いた種鱗から種子が顔を覗かせる。



1つの種鱗に2つの種子が入る。



まだ未熟で緑色の球果(8月頃)。



まだ1cm程の新たな球果(現在)。